

- 問1 戦国大名が定めた「分国法」に見られる特徴や目的を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 岡山県公立入試 類似)
- 領国内での私的な争いを禁止し、大名による裁判権を確立しようとした
 - 江戸幕府が諸大名を統制し、勝手に城を修理することを禁じようとした
 - 天皇や公家の行動を厳しく制限し、政治に関与させないようにした
 - 鎌倉幕府が御家人たちの土地争いを公平に解決するために制定した
- 問2 戦国大名の本拠地として発達した「城下町」の形成と役割について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 大分県公立入試 類似)
- 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住ませ、政治・軍事・経済の拠点とした。
 - 農民が武器を持って城下町に集まることを推奨し、有事の際の防衛力を高めた。
 - 海外との貿易を独占するため、すべての城下町は海岸沿いの港町に隣接して造られた。
 - 戦乱による被害を避けるため、城の周囲には武士のみを住ませ、商人には立ち入りを禁じた。
- 問3 戦国大名の武田氏にゆかりのある、現在の山梨県に位置する武田神社付近には、かつて大名の館を中心とした町が形成されていました。このように大名が家臣や商工業者を集めて町を作った主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- 有力な寺社への参拝客を増やすことで、宗教的な権威を利用して領民を支配するため
 - 家臣を一定の場所に集めて統制し、商工業を振興して領国の経済と軍事を支えるため
 - 交通の要所に休憩所を設けることで、旅人の利便性を高め、通行税を徴収するため
 - 海外との貿易を独占するために、海岸線に面した土地に防衛拠点を築くため
- 問4 16世紀のヨーロッパで起こった宗教改革の背景やその内容を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
- 蒸気機関の発明によって生産効率が向上し、資本主義経済が急速に発展した。
 - モンゴル帝国が勢力を拡大し、中国を支配して国号を元と定めた。
 - カトリック教会が資金集めのために販売した免罪符に対し、ルターが抗議の声を上げた。
 - 北アメリカの植民地がイギリスからの独立を宣言し、近代的な民主主義国家を樹立した。
- 問5 応仁の乱ののち、各地に登場した戦国大名が、自らの領内の武士や農民の行動を厳しく取り締まり、領地の安定と統治を強めるために独自に制定した法律を何とといいますか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
- 分国法
 - 御成敗式目
 - 武家諸法度
 - 公事方御定書
- 問6 15世紀末、ポルトガルの航海者がアフリカ大陸南端の喜望峰を回ってインドに到達したことで、ヨーロッパからアジアへの直接的な海上ルートが確立されました。この人物が切り開いた「インド航路」について述べたものとして、最も適切なものを答えなさい。 (2017年 高知県公立入試 類似)
- マルコ・ポーロが、陸路でアジアを訪れた帰路に発見した。
 - フェルディナンド・マゼランが、世界一周航海の一環として立ち寄った。
 - クリストファー・コロンブスが、西回りでアジアを目指す途中に到達した。
 - バスコ・ダ・ガマが、香辛料などの交易を目的として到達した。
- 問7 戦国時代に各地を支配した戦国大名の多くは、「下剋上」という風潮の中で台頭しました。この時代における「下剋上」の説明として、当時の社会状況をふまえた最も適切なものはどれですか。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
- 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。
 - 朝廷の権威を背景とした下級武士が、実力行使によって幕府の政治を批判し、地位を向上させた。
 - 幕府から任命された守護が、自らの実力を高めて隣国を吸収し、支配権を世襲していった。
 - 農民たちが宗教的な団結を強めることで、武士の支配を実力で排除して自治を行った。
- 問8 室町時代後半に見られた、実力で上の身分の者を圧倒する社会的な風潮の中で、それまでの守護に代わって台頭した勢力があります。自らの力で領地を拡大し、独自の法律である「分国法」などを定めて領国を支配したこれらの勢力を何と呼びますか。 (2020年 千葉県公立入試 類似)
- 御家人
 - 戦国大名
 - 守護大名
 - 地頭
- 問9 1543年に種子島へ鉄砲が伝来したことは、その後の戦国時代の戦い方や社会にどのような変化をもたらしましたか。最も適切な説明を選んでください。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
- 騎馬武者による一騎打ちが戦いの主流となり、個人の武勇がより重視されるようになった
 - 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった
 - 弓矢や刀剣が全く使われなくなり、すべての兵士が鉄砲のみを装備して戦うようになった
 - 鉄砲の製造に高度な技術が必要だったため、戦国大名同士の争いが一時的に停止した
- 問10 戦国大名が、室町幕府の法律があるにもかかわらず、独自に分国法を制定する必要があった背景として最も適切な理由はどれか。 (2021年 京都府公立入試 類似)
- 元寇による社会の混乱を鎮め、分割相続によって困窮した御家人の生活を救済する必要があったため。
 - 室町幕府の支配力が弱まり、大名が自力で領内の武士を統制し、領民を保護して団結させる必要があったため。
 - キリスト教の布教を制限し、仏教を基盤とした道徳的な領国経営を行う必要があったため。
 - 貨幣経済が浸透し、外国との貿易による利益を独占するために全国共通の商業ルールが必要になったため。
- 問11 戦国大名の一人である朝倉氏が定めた「朝倉敏景卿四十七ヶ条」という資料には、家臣が自らの居城以外に城を築くことを禁止する内容などが記されています。このような規定を設けることで、戦国大名が実現しようとしたこととして最も適切な説明を選びなさい。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
- 家臣が独自の軍事力を持つことを抑え、大名による領国支配を強化すること
 - 朝廷の許可を得ることで、他の大名に対して官位の優位性を示すこと
 - 室町幕府の権威を背景に、近隣の守護大名との同盟を維持すること
 - キリスト教の布教を制限することで、領民の思想的な結束を図ること
- 問12 戦国時代の九州において、ポルトガルやスペインとの南蛮貿易の利益を得ることを目的の一つとして、みづからキリスト教に入信し、宣教師を保護した大名を総称して何と呼びますか。 (2025年 京都府公立入試 類似)
- キリシタン大名
 - 戦国大名
 - 寄親
 - 守護大名
- 問13 武士に関わる法律の歴史について、鎌倉時代に北条泰時が制定した「御成敗式目」、江戸時代に幕府が大名を統制するために制定した「武家諸法度」、そして戦国時代に各大名が領国支配のために制定した法律を順に並べたものとして適切なものはどれですか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
- 御成敗式目 - 分国法 - 武家諸法度
 - 分国法 - 御成敗式目 - 武家諸法度
 - 御成敗式目 - 武家諸法度 - 分国法
 - 武家諸法度 - 分国法 - 御成敗式目

答え合わせ・解説

問1	答え 1 領国内での私的な争いを禁止し、大名による裁判権を確立しようとした	戦国大名は領国の軍事力を維持するため、家臣同士が私的な理由で喧嘩や抗争をすることを強く禁じました。代表的な規定に、理由を問わず争った両者を処罰する「喧嘩両成敗」があります。これにより、大名が絶対的な裁判権を持つことで領国支配を安定させる狙いがありました。他の選択肢は、武家諸法度（江戸時代）、御成敗式目（鎌倉時代）、禁中並公家諸法度（江戸時代）の説明です。
問2	答え 1 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住ませ、政治・軍事・経済の拠点とした。	戦国大名は、それまで各地の領地に散らばっていた家臣を城の周囲に集住させることで、軍事的な動員を容易にし、統制を強めました。また、商工業者も呼び寄せることで、武器の製造や物資の流通を活発化させ、領国の経済を発展させました。これが後の近世都市の原型となりました。
問3	答え 2 家臣を一定の場所に集めて統制し、商工業を振興して領国の経済と軍事を支えるため	戦国大名は、家臣を城の周囲に集住させる（集住政策）ことで、反乱を防ぐとともに戦時に素早く動員できる体制を整えました。また、商工業者に特権を与えて城下に呼び寄せ、城下町を経済の拠点とすることで、合戦に必要な物資や資金を安定して確保しようとした。これに対して、寺社の門前に発展した町は門前町、交通の要所に発展した町は宿場町と呼ばれます。
問4	答え 3 カトリック教会が資金集めのために販売した免罪符に対し、ルターが抗議の声を上げた。	宗教改革は、ルターが「九十五か条の論題」を発表し、カトリック教会の教えではなく聖書の内容こそが正しいとする立場をとったことで始まりました。他の選択肢のうち、産業革命は18世紀後半、アメリカ独立戦争は18世紀後半、元の成立は13世紀の出来事であり、16世紀の出来事ではありません。
問5	答え 1 分国法	室町幕府の権威が衰えた戦国時代、各地の戦国大名は実力で領地を支配する必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の原則などを盛り込んだ独自の法を定め、領国内の秩序を維持しようとした。鎌倉時代の御成敗式目や、江戸時代の武家諸法度とは制定された時代や目的が異なります。
問6	答え 4 バスコ・ダ・ガマが、香辛料などの交易を目的として到達した。	大航海時代において、ポルトガルはイスラム勢力が支配する陸路を避け、直接アジアの香辛料を手に入れるために海路の開発を進めました。1498年、バスコ・ダ・ガマがアフリカ南端の喜望峯を越えてインドのカリカットに到達したことで、アジアとの直接的な海上交易ルートが確立されました。これにより、ヨーロッパの経済・社会に大きな変化がもたらされました。
問7	答え 1 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。	戦国時代には、本来は主君に仕える立場であった守護代や国人などが、武力などの実力によって守護大名を追放したり、倒したりして自らが戦国大名へと成長する事例が多く見られました。これにより、室町幕府の任命に基づかない新しい支配体制が各地に形成されました。他の選択肢は一向一揆や守護大名の強化、幕末の動きを説明したものです。
問8	答え 2 戦国大名	下剋上の風潮によって、幕府から任命された守護の地位を奪ったり、地域の有力な武士が実力をつけたりすることで新しい支配者が現れました。彼らは自らの力で領国内の家臣や農民を統制し、他の地域と争いながら勢力を広めました。
問9	答え 2 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった	鉄砲の伝来と普及は、戦国時代の合戦のあり方を根本から変えました。それまでの騎馬武者中心の戦いから、鉄砲を装備した足軽による組織的な集団戦法へと移行しました。また、鉄砲の威力に対抗するために、石垣を高く積み上げ、厚い壁を持つ堅固な城郭が築かれるようになるなど、建築技術にも大きな影響を与えました。
問10	答え 2 室町幕府の支配力が弱まり、大名が自力で領内の武士を統制し、領民を保護して団結させる必要があったため。	応仁の乱以降、室町幕府の権威が失墜し、全国的な法秩序が機能しなくなりました。下剋上の風潮の中で生き残るため、戦国大名は独自の法を設けることで家臣の勝手な行動を制限し、領内を一貫して支配する体制を整える必要がありました。
問11	答え 1 家臣が独自の軍事力を持つことを抑え、大名による領国支配を強化すること	戦国大名は分国法を通じて、家臣たちの勝手な行動を厳しく制限しました。朝倉氏の事例のように、居城以外の城（支城）を勝手に持たせないようにすることは、家臣が独立した勢力になることを防ぎ、大名の支配下に置くという目的がありました。このように、大名への忠誠を誓わせ、領国内の秩序を保つことが分国法の大きな目的です。
問12	答え 1 キリシタン大名	九州や近畿地方の戦国大名の中には、貿易による経済的利益や、鉄砲・火薬などの軍事物資を手に入れるために宣教師を保護し、自らも洗礼を受ける者が現れました。このような大名はキリシタン大名と呼ばれ、代表的な人物に大友宗麟などがいます。
問13	答え 1 御成敗式目 - 分国法 - 武家諸法度	1232年に鎌倉幕府が定めた御成敗式目は、武家社会における最初の体系的な法律です。その後、戦国時代に各地の大名が分国法を定め、江戸時代に入ると、1615年に徳川秀忠の代で全国の名目を統制するための武家諸法度が制定されました。分国法は、幕府による全国的な法支配が途絶えていた時期に、地域限定で機能した法という位置づけになります。